

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 4 月 25 日 8:55AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 31,500～36,700 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 36,500～42,200 ドル
(S&P500) 4600～5750

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 14,500～18,300

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～146.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～103.000

(おしらせ) 次回号リリースは 5 月 2 日(金)の予定です。

エリオット波動とは

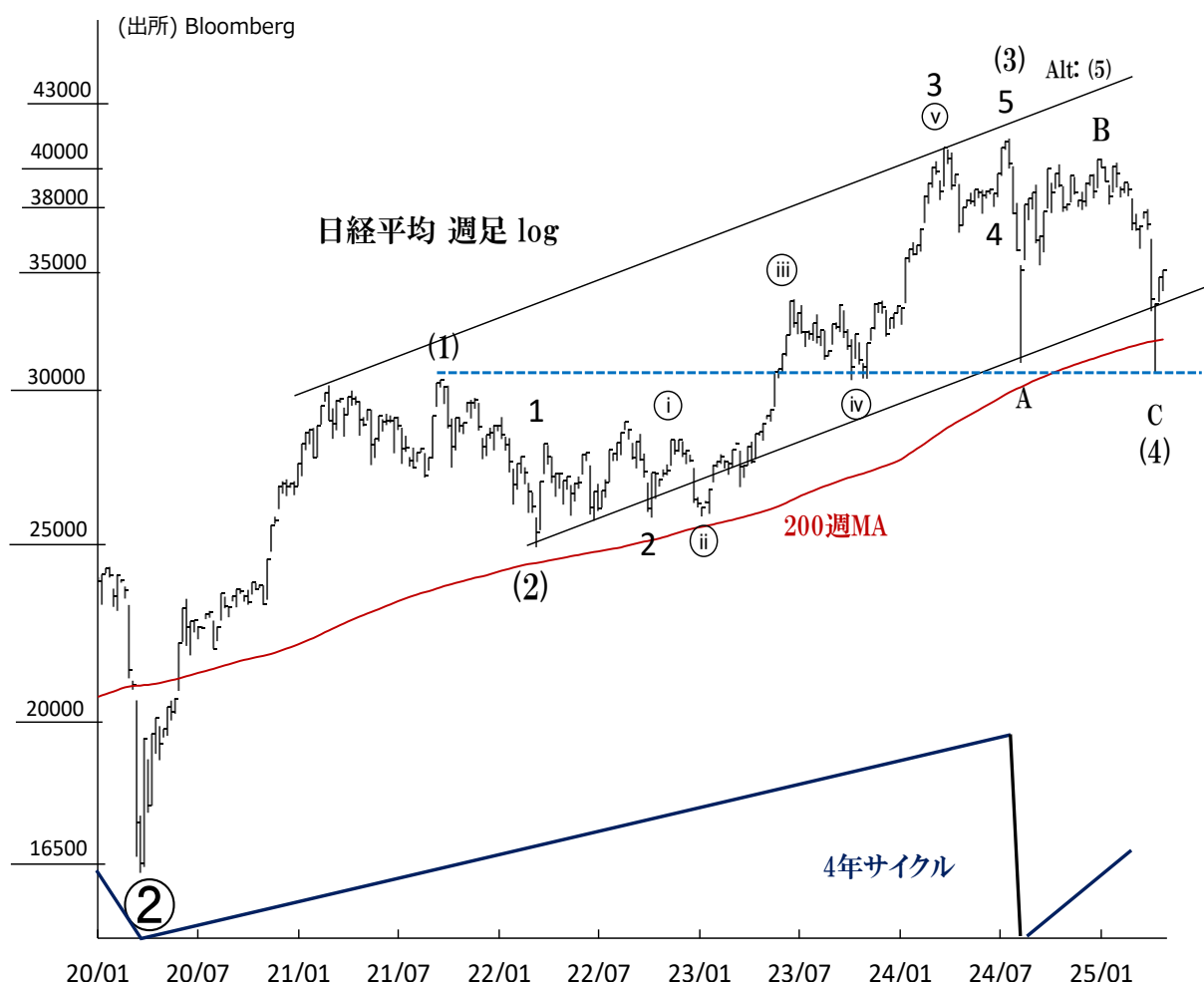
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

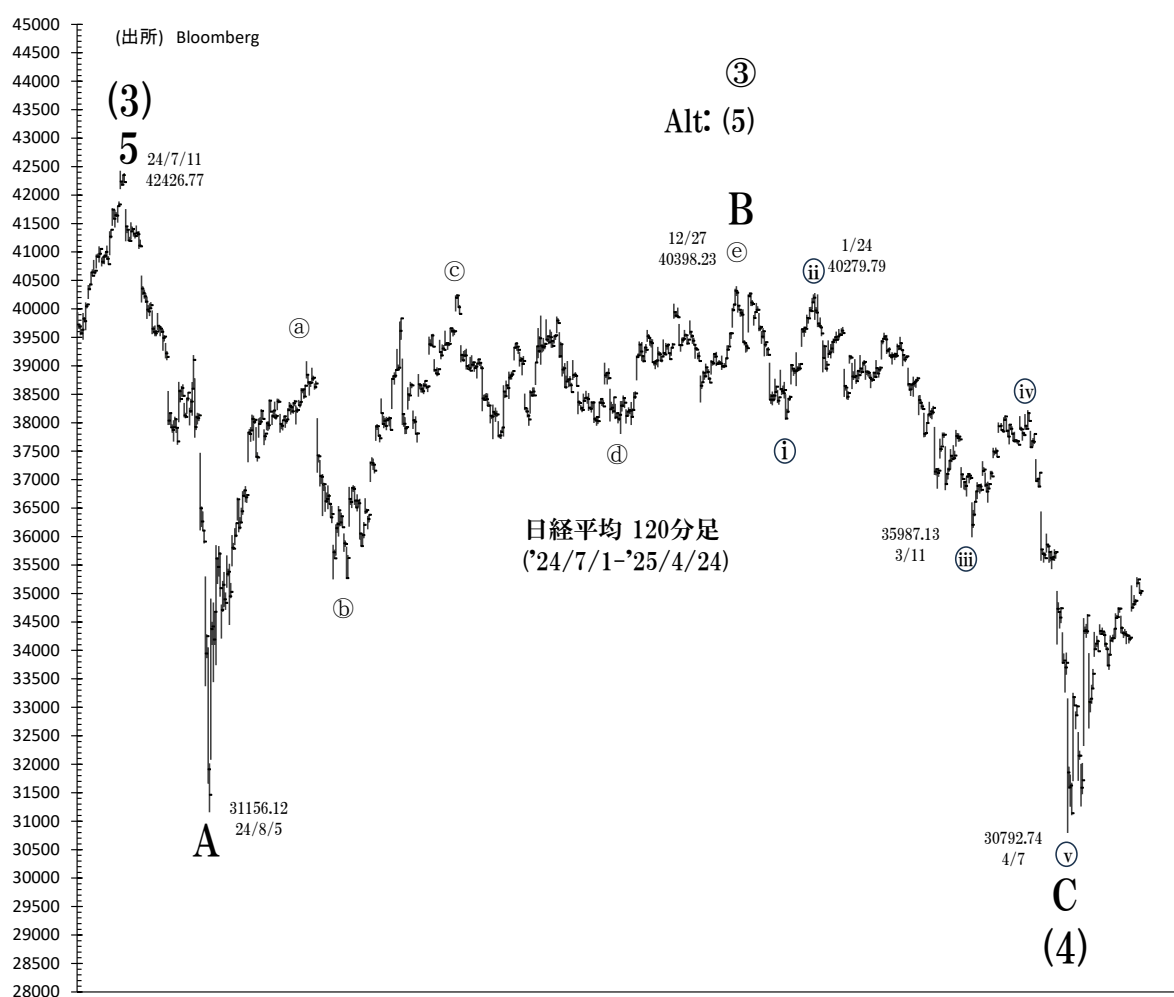
4月7日の安値(30,792円)は、インターミディエイト級(1)波高値(30,795円)を3円だけ侵犯し、1波と4波が重ならない「ノーオーバーラップ」の原則に抵触しました。一方TOPIXの1波と4波は重ならず、4月7日安値(2243)は24年8月底(2206)に対し切り上がりました。

このような、**日経平均とTOPIXの間の「未確認」**は**底入れのサイン**として注目できます。

4月7日の東証プライム市場出来高は36億6374万株に急増し、24年8月底(40億9000万株)に次ぐ大きさでした。**TOPIXはセリングクライマックス型の「二番底」を付けた可能性が高い**、とみられます。

日経平均は、重要サポートとしての200週MAを週末値で維持しており、プライマリー上昇③波は依然続いている、とみることができます。後述するように、日経平均はインターミディエイト級第(4)波の調整を終え、**第(5)波の上昇を始めた可能性があります**。





【日足・時間足 エリオット波動分析】

30,792 円(4/7 安値)を以て、24 年 7 月高値(42,426 円)からのインターミディエイト級(4)波「フラット」は、完成した可能性があります。

当面の上値レンジとして、**[35,595 円～36,728 円]**(24 年 12 月高値 40,398 円からの下げ半値戻り～61.8%戻り)が想定されます。4 月 24 日には一時 35,287 円まで上昇、想定レンジの下限に近づきました。

この先、リバウンドが強まる中で「やれやれの売り」圧力も強まると考えられます。**4 月 7 日に底打ちした可能性は高いものの、(24 年 8 月底直後のような)V 字型回復は望み薄でしょう。**第(5)波としての上昇基調が強まるまでには、相応の時間が必要でしょう。

(オルタナティブ・カウント)

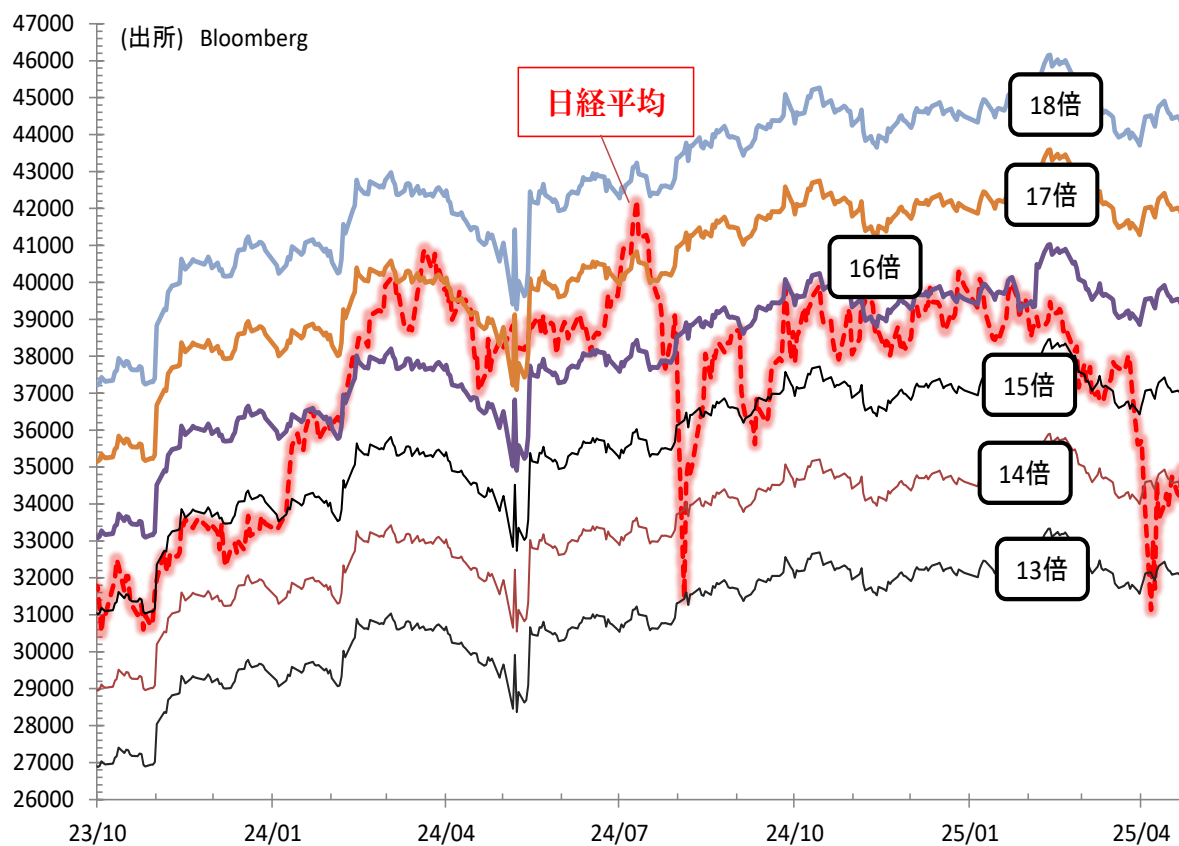
30,792 円を下抜くと以下の波動カウントに切り替えます。

24 年 8 月からの上昇第(5)波は 40,398 円(12/27 高値)を以て終わり—“truncated fifth”(短縮された 5 波)—プライマリー級の④波による調整が進行中とみられます。この場合**日経平均は、いずれ 2 万 7000 円処(PBR1 倍水準)を試す可能性**があります。

[予想 PER 別の日経平均水準]

4 月 24 日の日経平均予想 PER は 14.23 倍、予想 EPS は 2462 円。

過去最高の EPS は 2564 円(2/13)です。



NY ダウ・S&P500



【日足 エリオット波動分析】

4月7日には一時36,611ドルまで下げ、22年から上昇の半値押し[36,807ドル]を達成しました。昨年末に想定した通り、NYダウの調整規模は22年10月以降最大に拡大したわけです。

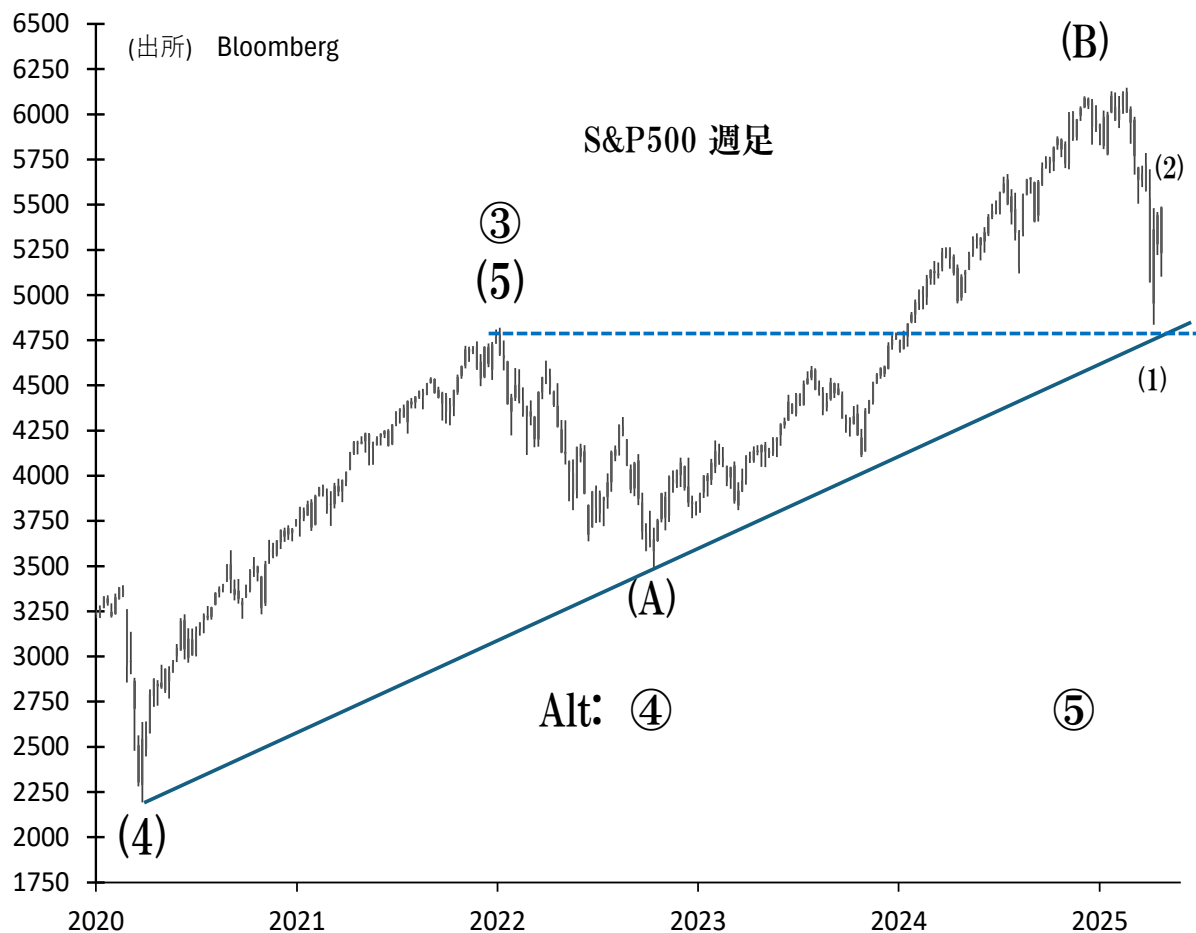
足元の上昇は第(4)波、あるいは第(2)波によるリバウンド局面に位置付けられます。

200日MA(42,203ドル)付近までの戻り余地は引き続きあるものの—そのハードルは高くなっていますが—リバウンド後に到来する下落局面に要注意です。

200日MA水準まで戻り切れない代わり、トライアングルのような横ばいの動きが今後2～3週間にわたり続く可能性もあります。もしそうなれば、足元の波動位置が第(4)波であることの傍証になります。

弱基調は続いているとみられ、今後数週間から数カ月の内に36,611ドルを下抜く展開が想定されます。

22年1月～10月の(A)波は22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、より大きな下落スケールになると思われます。試みに最高値から22.4%下げる水準を求めると[34,977ドル]です。この付近には[34,930ドル](22年からの61.8%押し水準)があることから、3万5000ドル処は中期下値目標として適当とみられます。



【S&P500 週足 エリオット波動分析】

筆者の長期的な波動カウントは、22 年 1 月高値(4818)以来、プライマリー級④波による調整(A)→(B)→(C)が進行中というものです。そのうち(B)波は最高値を更新し続け、今年の高値を以て「イレギュラートップ」を終了しました。そこからは(C)波による下落が進行中とみられます。

④波中の(A)波は 27.84%下げました。(C)波も同率で下げるとすれば、下値メドは[4435]となります。

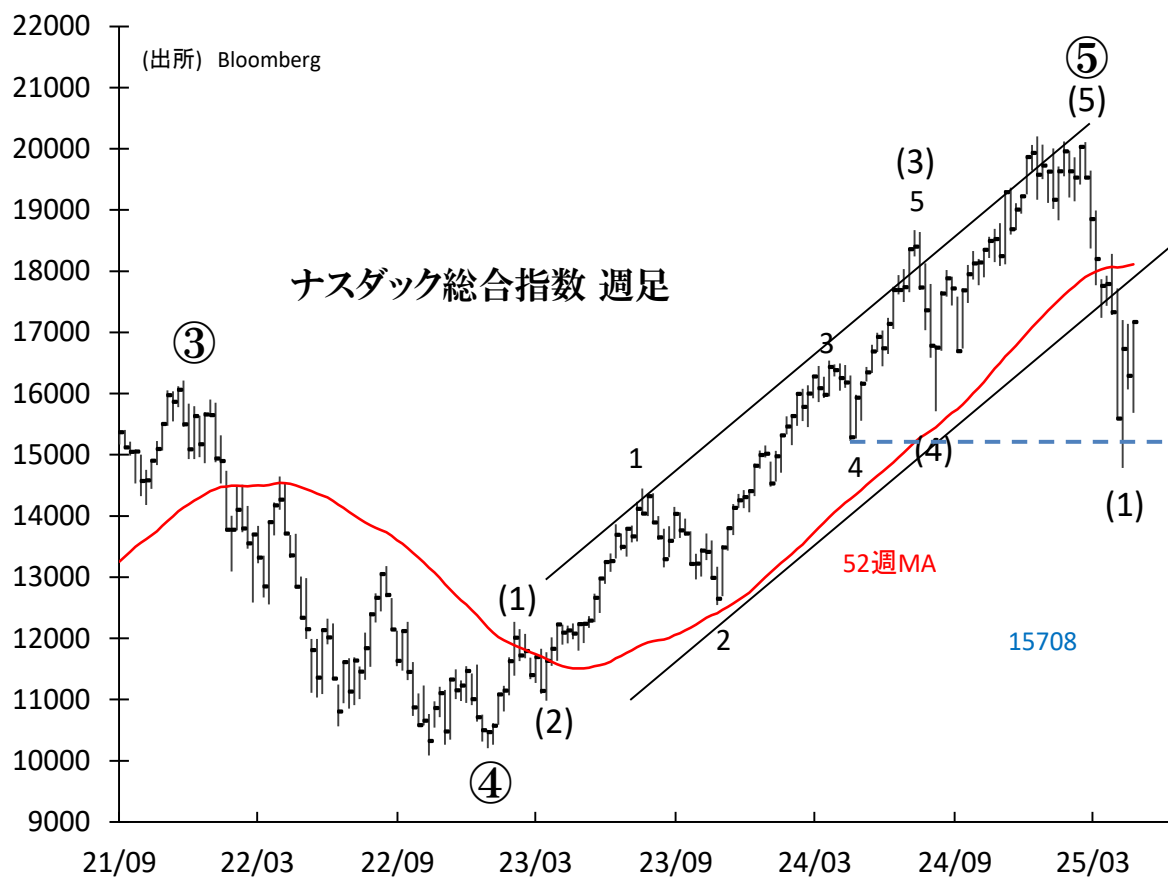
④波が「エキスパンディッド・フラット」になる可能性にも留意しておかなければなりません。この場合には、(C)波安値は、(A)波安値[3491]を下抜くことになります。

(C)波の完了を以てプライマリー級④波のすべてが完成し、数年単位の強気トレンド(プライマリー級の第⑤波)が開始されるでしょう。ハイテク株で構成されるナスダックとは違い、ハイテク株と非ハイテク株のハイブリッドである S&P500 は、いずれ最高値を更新する可能性もありそうです。

4835(4/7 安値)からは第(2)波によるリバウンドとみられます。

4 月 24 日に一時 5489 まで上昇し、フィボナッチ・リトレースメントレンジ[5491-5646](2 月からの下落の 50%-61.8%戻り)の下限に近付きました。リバウンドが継続すれば、同レンジの上限や、さらには 200 日 MA(5747)試しがあるかもしれません。もっともリバウンド終了後には第(3)波による急落となる点には引き続き注意が必要です。

ナスダック



【ナスダック総合指数 週足 エリオット波動分析】

ナスダック総合指数(以下、ナスダック)は、24 年 12 月安値(20,204)からサイクル級の調整が進行中とみられます。

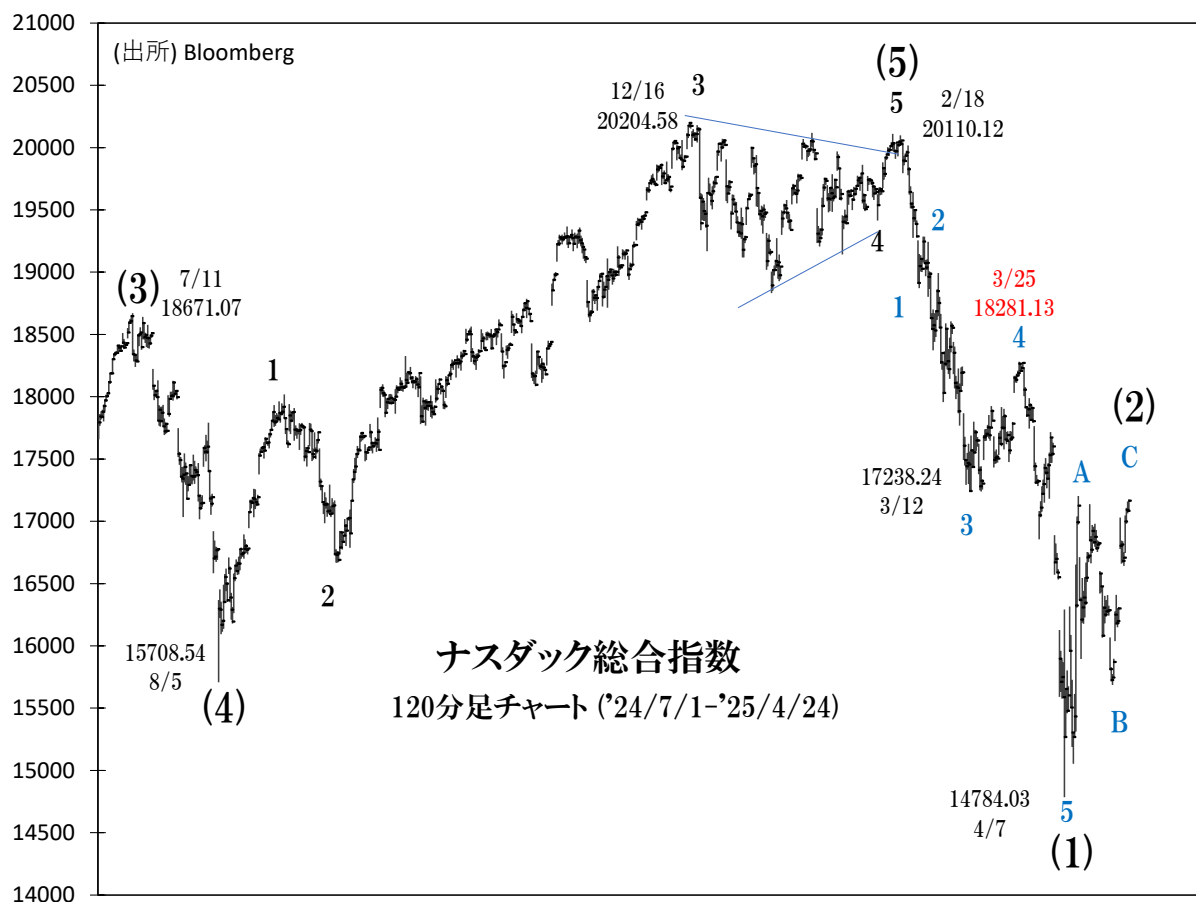
21 年～22 年のプライマリー④波の下げ率(37.77%)は、ほぼフィボナッチ比率(38.2%)でした。

今後 1～2 年という期間でみると、**[12,527]** (24 年 12 月高値から 38%下げる水準)へ下押す可能性もあるでしょう。

さらに、**先々④波安値[10,088]への下値試しとなる可能性にも留意**すべきでしょう。サイクル級の調整は、プライマリー級より上位の波動等級(ディグリー)であり、ディグリーが大きくなるに従い調整スケールも大きくなるのが通常です。

14,784(4/7 安値)からの第(2)波によるリバウンドは、まだ続いているかもしれません。もっとも、**リバウンド完了後には第(3)波の下落によって、14,784 を下抜く可能性に注意**が必要です。





【時間足 エリオット波動分析】

14,784(4/7 安値)からは第(2)波によるリバウンドとみられます。

リバウンドの想定レンジは[17,447-18,075](2 月からの下げに対する 50%-61.8%戻り)です。このレンジ上限からやや上に、第(1)波のレッサー・ディグリー4 波高値 18,281(3/25)、200 日 MA(18,344)などが控えます。今のところ 4 月安値からの戻り高値は 17,202(4/9)です。

この波動カウントによれば、第(2)波リバウンドを経て第(3)波の下落が続くことになります。そして、この第(3)波は 14,784 を明確に下抜く見込みです。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

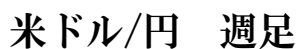
151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24 年 7 月の 161.938 円は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、まずは 2011 年からの上昇チャネルの**センターライン①136.425 円(4 月)**がサポートレベルとみられます。

もっとも 139 円処を下抜くとヘッド・アンド・ショルダーズ型の天井パターンから下放れ始め—上述したセンターラインで底入れせず—フィボナッチ・サポートの**[128.945 円]**を試す展開となりそうです。

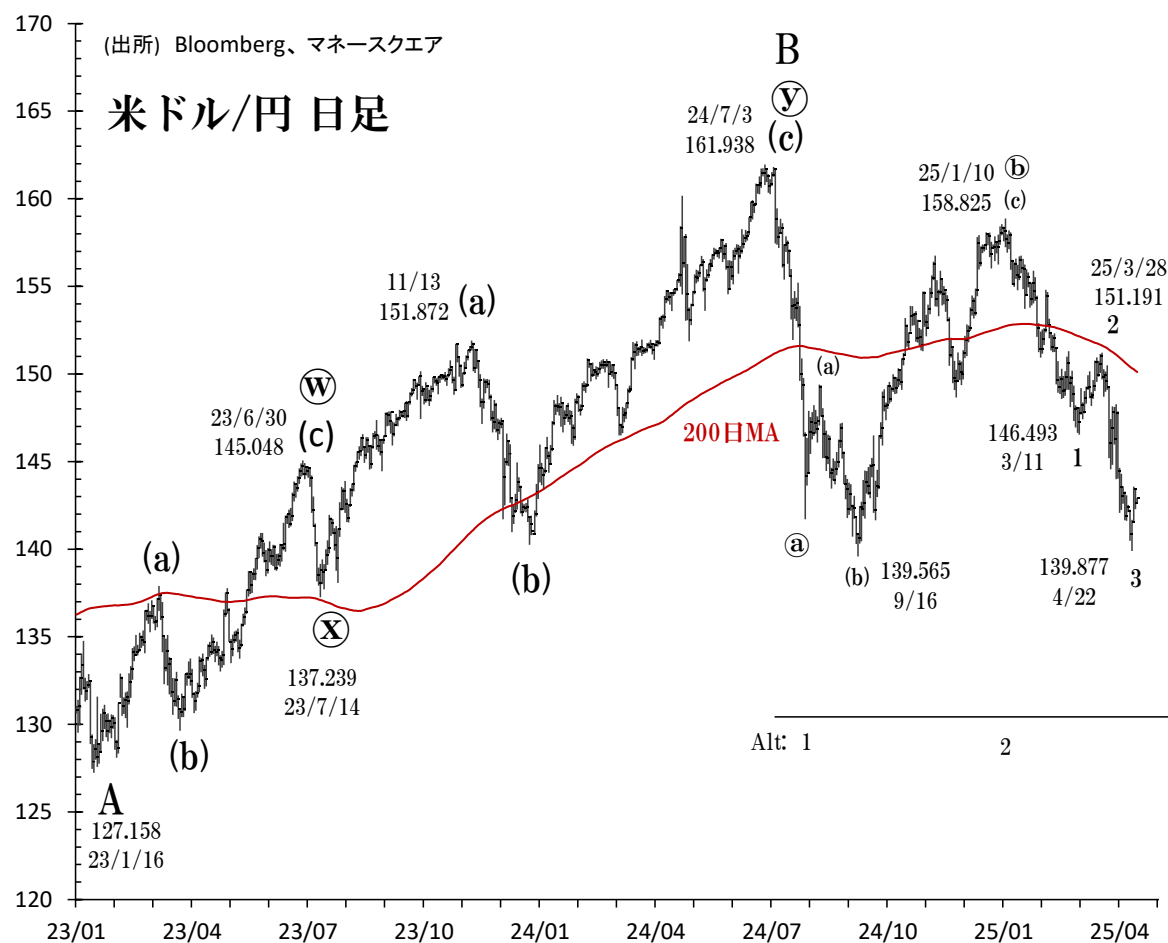
②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。**②の水準は 116.800 円(4 月)**です。



161.938 円(24/7/3)からは C 波によるドル安・円高トレンドです。C 波は三波構成 (a-b-c) がまずは想定され、158.825 円(1/10)から c 波によるドル安・円高が進行中とみられます。

[138.517 円]…㊦波と㊧波が等しく下がる水準

[136.452 円]…24 年 7 月から 9 月までドル/円下落幅と、今年 1 月からのドル/円下落幅が等しい



【日足 エリオット波動分析】

151.191 円(3/28)からの第 3 波によるドル安・円高は、139.877 円(4/22)で終わった可能性があります。そうであれば、足元は第 4 波によるリバウンドに位置付けられます。

この第 4 波の高値が第 1 波安値 146.493 円と重なることはありません(重なれば別の波動カウントが必要です)。

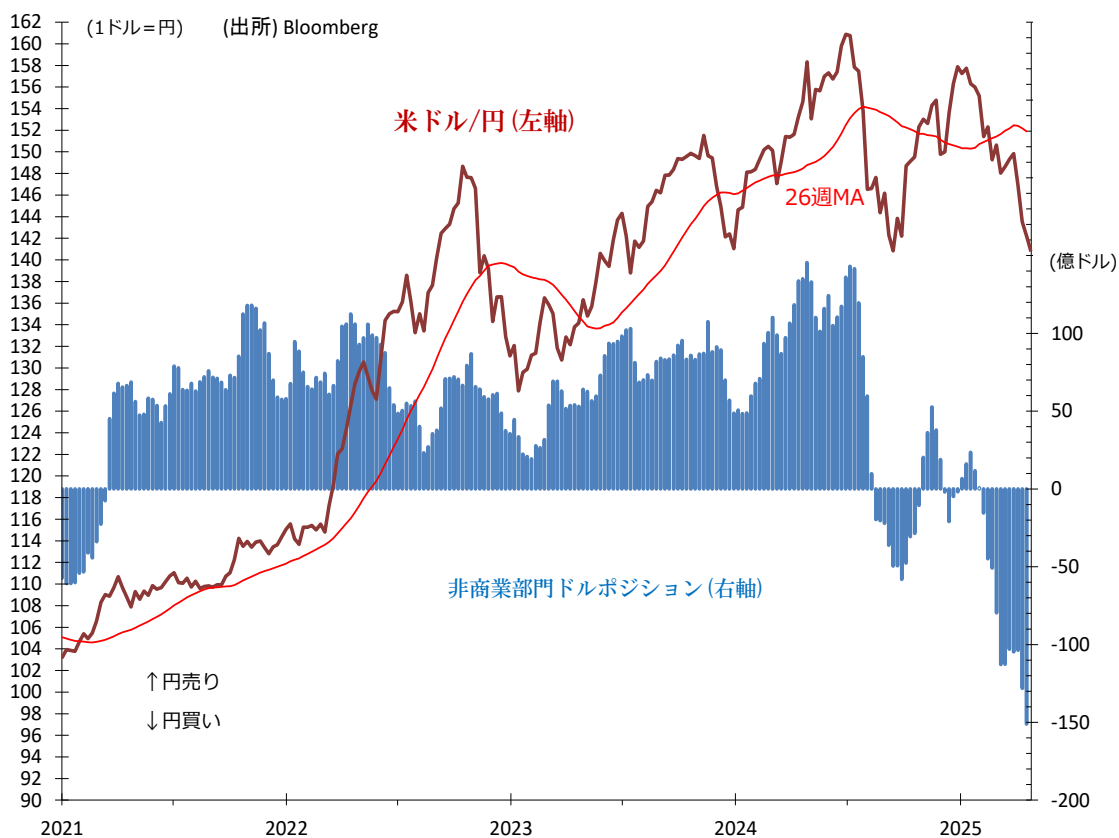
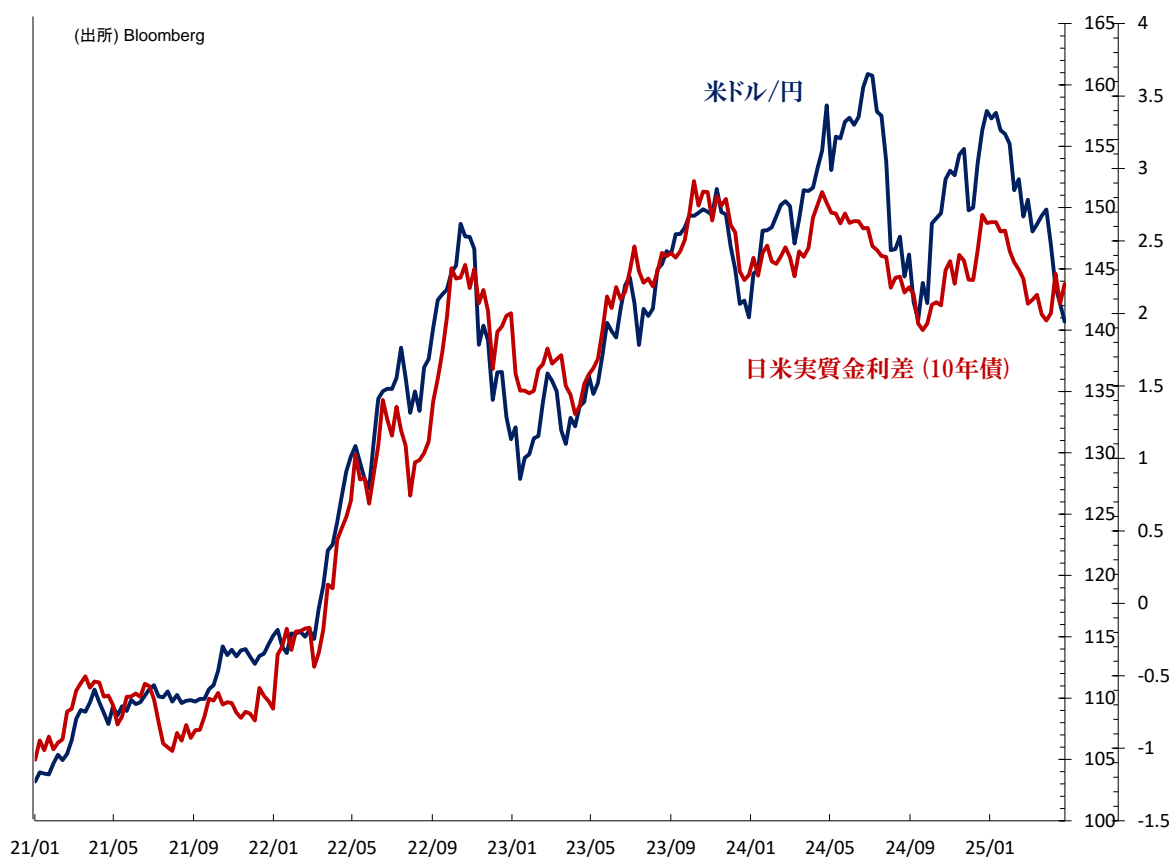
第 4 波を終了後は第 5 波によるドル安・円高に移り、それは 139.565 円を明確に下抜くでしょう。

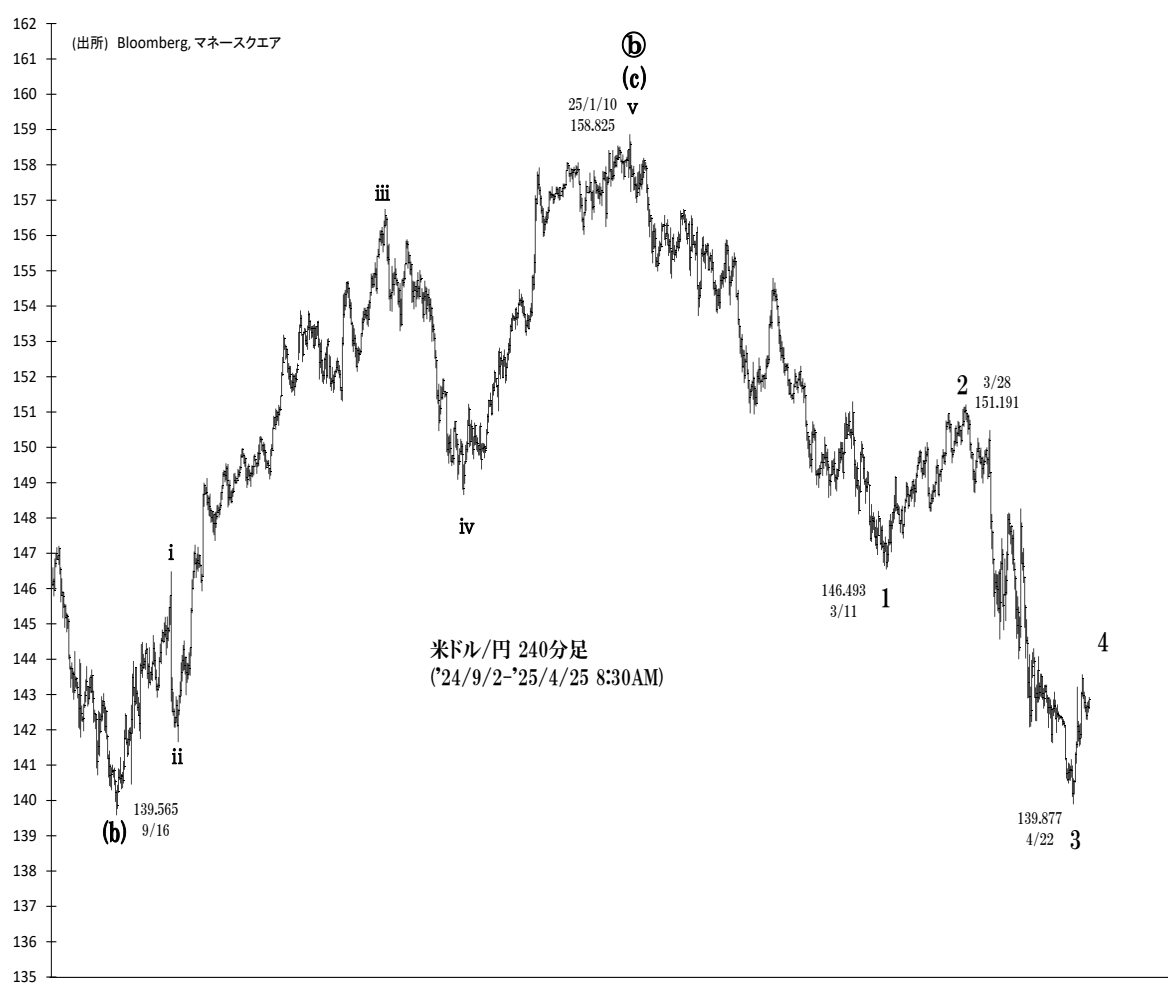
金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[145.282 円]です。

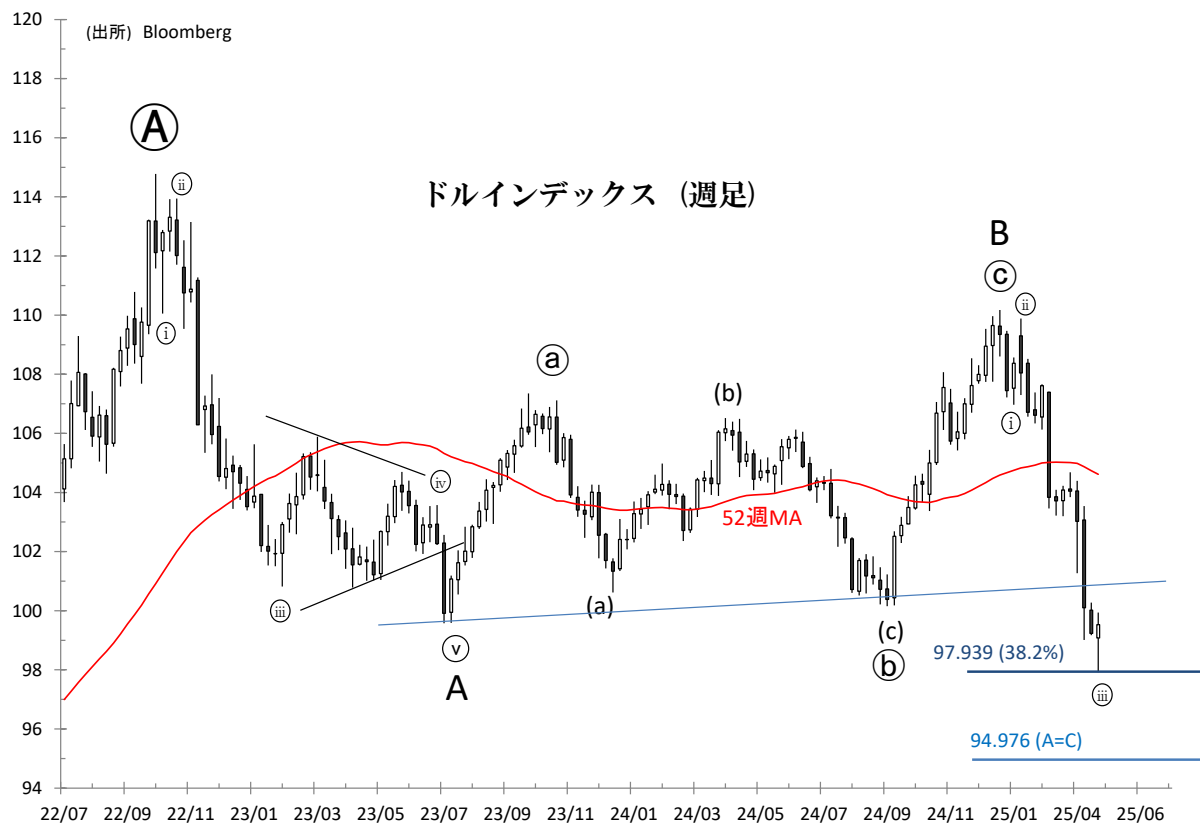
投機筋の円買い持ち高が過去最大に(2025 年 4 月 15 日時点)

IMM 通貨先物市場で、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は 2 週続けて急増しました。円買い持ちは前週の 128.07 億ドルから 151.08 億ドルと過去最大の水準を更新しました。





ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

ドル指数は4月21日安値(97.921)で、フィボナッチ・サポート[97.939](08年からのドル高に対する38.2%戻り水準)を達成しました。予想された通りドル安は一服し、足元はリバウンドの動きがみられます。このリバウンドはC波中マルiv波に相当すると思われます。

マルii波がジグザグだったことから、マルiv波は保ち合い相場となりやすいでしょう。保ち合いの後には、C波中マルv波のドル安基調が再開し、[94.976](A=C)を試すことでしょう。

一方、C波自体が終了している可能性もあります。この場合、22年からのA-B-Cジグザグは完成し、それに続く(X)波に入ったとみられます。(X)波によってドル指数は、今後の数カ月タームで上昇するでしょう。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
